

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 勝股 秀通

<p>研究課題</p>	<p>日本の危機対応組織を“組織化”するための道筋</p>
<p>報告の概要</p>	<p>研究目的及び研究概要 平成29年度の個人研究費は、以下に述べるような問題意識に基づき、計画実施された。本年度は昨年度に引き続き、警察、海上保安庁、自衛隊という「治安及び危機担当組織(機関)」同士の連携を巡る諸問題を浮き彫りにし、検証することであり、その目的は、離島を含め長い海岸線を持つ日本固有の領域警備体制の強化に資するためである。しかしながら、本研究は極めて政治色の強いテーマでもあり、これまで連携を巡る問題の存在については、各々の組織内で一定程度の認識は共有されていたが、それを指摘し、改善しようとする試みは、政治的かつ組織論的にもタブー視されている。加えて、学術研究の分野において、組織間の連携についての関心は低く、問題が存在していること自体、不知の状況が続いている。 本年度は、危機対応組織同士の連携こそが、日本の危機管理及び危機対応の「盲点」であるとの認識から、座学を中心に、現状の北朝鮮の核ミサイル危機、尖閣諸島をはじめとする離島警備などいくつかの事例から領域警備体制の現状について検証すると同時に、様々な機会や媒体を通じて幅広く告知することに費やした。</p> <p>研究成果 平成29年度の研究として、当初は昨年度の沖縄・尖閣諸島を巡る防衛警備態勢、及び原発警備の実地調査に続き、長崎・五島列島などを事例に警備環境の実態調査を行う予定であったが、危機管理学部企画広報委員会のWG長として、テレビ大阪の番組企画や危機管理産業展への出展等の業務に忙殺され、現地調査の日程を組むことができなかった。このため、29年度は危機対応機関同士の領域警備の現状と課題を「国防の盲点」と捉え、広く告知することに力を置いた。 具体的には、単著化を前提に、ウェッジ社の月刊誌「Wedge」6月号から『国防の盲点』と題した連載に取り組み、対馬など国境離島における警備体制の現状について報告した。この問題は、日本が直面している危機の根底にある過疎化や少子化問題と連動し、さらには、科学技術の進歩(無人機やドローンなどの活用)とも絡む問題であり、次年度以降は危機対応組織同士の連携を越えた視点も幅広く取り入れていきたいと考えている。</p>
<p>研究業績</p>	<p>・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数 ①学会講演録:勝股秀通「国防の盲点」、総合危機管理学会機関誌『総合危機管理』第2号、2018年3月刊行</p> <p>・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所 ①学会発表:勝股秀通「北朝鮮ミサイル危機における国民保護」、総合危機管理学会第2回学術集会、2017年5月28日、東京理科大学</p> <p>・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等 ①雑誌投稿:勝股秀通「国防の盲点」、『Wedge』6月号、2017年5月20日、62、63頁「国防の盲点」の連載は6月号以降継続中 ②雑誌投稿:勝股秀通「核の脅威から10年 今こそ日本は「最悪」に備えよ」、『読売クオーター』2017年夏号(2017年7月28日)、16~28頁 ③雑誌投稿:勝股秀通「戦闘と隣り合わせのPKOの現実を直視せよ」、『Wedge』5月号、2017年4月20日、8~11頁 ④WEB雑誌投稿:勝股秀通「韓国の「日米からの離反」で北の核「悪夢のシナリオ」が進行中」、『現代ビジネス』(講談社)、2017年12月15日配信 ⑤講演会等:第13回安全保障シンポジウム「日本の危機に備えよ」(NPO法人・ネットジャーナリスト協会主催)、2018年3月6日、日本プレスセンタービル ⑥社会貢献活動:内閣府準天頂衛星システム事業推進委員会公共専用信号分科会委員、2017年4月~継続中</p>